

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700540		
法人名	有限会社そうせい舎		
事業所名	グループホームあったか大黒Ⅱ号館		
所在地	稚内市大黒5丁目10-23		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0176700540-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時代や人が変わってもⅡ号館は牧歌的なグループホームであり続けたい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、市内中心部に近い閑静な住宅街大黒地区にあり、JR南稚内駅やバス停も近く、大型スーパーも近々という交通や買い物の利便性も高い地域で、自然環境も静かな環境下に立地している。当事業所は2019年4月に市内の宝来町から移転、新築の建物で当地で事業を継続開始となった。法人としては、宅老所として長年老人をお世話してきた経緯があり、培ったサービスを新築の事業所の2階で1ユニット9人の生活を支える力として十分に発揮している。事業所の1階は従前のケアプランセンターを引き継いでおり、また当事業所と隣接して2010年に開設したあったか大黒Ⅰ号館があり、1階と2階は廊下で繋がれ行き来が自由になっている。3つの事業所が1カ所に統合され、今まで以上にⅠ号館、Ⅱ号館、ケアプランセンターの一体化が強く意識され、相互協力体制が維持されている。当事業所の介護に対する基本的なスタンスでもある「介護者の都合での介護はしない」を前提に、さらに進んで、入浴や外出等々についてもサービスは利用者が選択するという、サービスの観点からは当たり前だが、実施困難な課題にあえて取り組んでいる。今後も「グループホームあったか大黒Ⅱ号館」に大いに期待し注目していきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現行理念は事業所と職員個々の思いを集約したもので共有し実践している	転居前からの旧宝来館の理念「いつも笑顔でゆったりと楽しく・いつも寄り添って」を継承し、新しい環境で介護の実践に活かそうと努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は自粛している	転居して4月で3年目に入るが、母体法人の取り組みが地域で定着しており、事業所内の多目的室を地域で活用してもらい、さらに密接な相互交流を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度のオレンジカフェはコロナ禍で開催出来ていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍でまだ開催に出来ていない	地域の福祉委員や包括センター、民生委員等の出席で開催しており、事故やヒヤリハットについても報告し、意見交換をしているが、コロナ禍であるために委員の召集はせず、書面にて実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月ホーム紙「あったか風便り」をお届けしホームの実情や取り組みをお伝えしている	行政の窓口とは、制度の解釈や運営について適時指導を受けたり、また介護の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努め、日頃からの協力体制を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上夜間は施錠させて頂いている。3ヶ月ごとと身体拘束適正化委員会をミーティングと合わせて開き不適切介護を含め話し合っている	身体拘束禁止委員会を設置し、指針を定めて3ヶ月ごとに開催している。事案は現状の介護内容の検証や事例検討等々、議事内容については、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで言葉使いなどを含めて話し合い虐待が起きない様務めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援や成年後見制度について職員の理解度は高いとは言えないが必要とする人には代表者や包括支援センターと話し合い活用出来るよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはすべての項目にわたり説明し理解して頂いている。改定時にも改定に至った理由をお話し納得して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家庭訪問時にご家族の意見や要望をお聞きしている	毎月お便りの「あったか風便り」を発行し、利用者の様子を伝えている。また来所時にはなんでも話してもらえるよう配慮し、出された疑問や意見は職員で共有し、苦言や苦情には即対応し、不快な事が少しでもなくなるよう、サービスの質向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の間やミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている	月に1度のミーティングや毎日の申し送り等で職員からの意見を得ながら、必要に応じた個人面談も設定して意見や提案を受け入れ、検討しサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍、マスクの配布や慰労金など職員のモチベーションの維持向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度の社内研修を計画し日程を発表することで職員が参加予定をたやすくしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームから利用者を受け入れることがあるが職員間の交流はあまり活発ではない地域ケア会議に参加し交流を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し本人の人柄を知り受け入れることで環境の変化による不安が軽減され早期に馴染みの関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にホームの理念やケアの実際をお話し安心と納得を頂いている。要望は可能であればすぐにお答えする様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の求めている支援は介護計画に反映している。他のサービスについてはホーム入居中でも受けれるものであれば必要に応じ対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今出来ることをして頂いている。職員も一緒にすることで暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来るだけ面会に来られる様にお願ひし本人の普段の暮らしぶりを知って頂き、その時その時の本人の困りごとを一緒に解決出来る様に務めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策で馴染みの場所には出かけられないが家族や知人へは定期的の便りや手紙の他折に触れ近況をお伝えするようにしている	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、遠距離の外出や墓参り等は家族と協力しあい支援しており、昔からの馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数なので相性や能力の違いで諍いになることもあるが職員が間を置かずフォローして尾を引く事の無い様務めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は入居者さんが亡くなられた時で、葬儀の手伝いなどしているが月日の経過とともにご家族とは疎遠になっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を気安く言えるような環境整備に努めている。言葉でのコミュニケーションが難しい方は仕草や表情から思いをくみ取り満足や笑顔で過ごして頂ける様に努めている	毎日の生活を支援の中から、好き嫌い等を汲み取り、職員間で共有しながら、また意向の把握が困難な状態では生活歴や家族からの聴取で、本人本位の生活となるように臨んでいる。	本人は最後の時間をどこでどのように過ごしたいのか等々、エンディングの具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	不可解行動の要因に生活歴が関連している事を職員は理解し把握に努めている。ただ本人からは早急に聞き出すような事はせず時間をかけ日々の会話のなかで知る様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝夕2回のミニミーティングで一人ひとりの心身状態、トビックスの把握共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いが反映された介護計画を作成している。終末期などは計画を変更しているが日々の変化を捉えた介護内容欄の変更は出来ていない	介護計画は12ヶ月1年単位で見直しを実施しているが、病変等が生じた場合はすぐに対応・変更しており、実情にあった介護計画を作成、実行している。介護計画が把握しやすい介護日誌への変更も検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りや情報共有し日々のケアに活用している。終末期ケアでは24時間の動向を記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会制限せざるを得ずオンライン面会を整備		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍という特異状況にあって外出や面会を制限せざるを得なく地域資源との協働は難しい		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前からのかかりつけ医で受診している。重度化で通院が難しくなった場合、往診してくれる医院が限られているため本人、家族と転院について話し合っている	かかりつけ医は本人や家族の希望を優先して決められるが、医療機関が少ないため協力医と重なる場合が多い。重度化した場合、往診等が必要となるため、適切な医療になるよう主治医の変更も含め家族と話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週一回の訪問看護時に色々相談している。急変時は昼夜問わず連絡をつけ利用者さんが適切な看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は基本スタッフが毎日見舞いに行くようにして担当看護師との情報交換に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームで看取りが出来ることを伝えていく。重度化の進行の段階段階でその都度ご家族、かかりつけ医、看護師、ホームが話し合い方針を決める様にしている	終末期の看取り介護を実施しており、利用者のほとんどが当地での最後を希望している。医療的に24Hオンコールなどのバックアップ体制を整えて、利用者や家族の意向に沿えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し取り扱い講習を全職員に行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を日中、夜間を想定し年2回実施している。	年に2回の避難訓練は消防署の立ち合いで実施し、水や食料等々備蓄品も用意している。避難先は近隣の宗教法人の建物の許可を得ており、また水害も考慮し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除等で居室に入る際は必ず本人の承諾を得てから入室する様に心がけている	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話を通して希望や思いを伝えられる様にしている。言葉が出なくても仕草や表情で思いを汲み取るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかでゆったりとしたタイムテーブルで一日を過ごす様にしているが年月を重ねるうちに職員ペースが生まれてきている事は否めない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会など催し物のときには職員と一緒に化粧や服選びをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳下膳を職員としている。定番のいもちや皮むきから捏ねる焼くまでを利用者が率先してやられている	食事の行程、皮むきから盛り付け、後片付けまでお手伝いをお願いしているが、定番となったいもちや皮むきから捏ねる、焼くまでを利用者が率先して行い、みなさんの楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝あまり食べない、お茶は飲まないなど一人ひとり好みや習慣があるが食事水分表を見ながら一日通して必要な栄養、水分が確保出来るよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の力に合わせて口腔ケアしている。寝る前から朝まで入れ歯は洗浄剤につけて衛生を保てるよう支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しトイレ誘導や声掛けを行っている。重度化が進んでも寝たきりになるまではトイレで排泄できる様支援している	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によりもたらされる様々な弊害について職員は十分に理解し予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせてシャワー浴にしたり介助を二人にしたりして安心して入浴出来る様に努めている	毎日、浴槽にお湯を溜め、いつでも誰でもが入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に支援している。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や浮腫み軽減のための休息促しを行っている。夜間巡回時安眠を妨げない様に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった際には職員間で周知徹底を図っている。向精神薬の服薬については症状の変化観察し医療との連携を密にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	繕い物や野菜の皮むきなどそれぞれの得意な事をお願いしている。本人が好む嗜好品(珈琲特定のお菓子)はいつでも飲食出来るよう常備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で外へ出かけられる状況ではなかった。受診帰りに公園や港に寄って気分転換出来るように計らっている	月に1回は外出が出来るよう努め、通院や買い物への帰りに気になる場所に立ち寄りしている。また散歩や買い物も気楽にできるように努め、特に散歩は天候と相談しながら日課として行い、近所や前庭を散策、外気浴を行い、閉じこもらない介護を実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	例年お祭りでは法人から利用者さんへお小遣いを出して露店での買い食いや植木の購入などに使える様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くのはなかなか難しく出来ていないが遠方のご家族から贈り物や便りがあった時お礼の電話を掛ける様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや各居室に湿度用のタオル掛けをつけ湿度が保てるように工夫している。季節のパネルはリビングに飾った後は廊下に掲示し思い出を誘起出来る様にしている	2年前に出来た新築ホームであり、居間等の共同空間は採光や温度、湿度にも配慮されている。壁や廊下も派手さを抑えた落ち着いた季節感のある飾りつけとなっており、ゆっくりと居心地の良さが感じられる。1階部に多目的室があり、市民に開放している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時その時でテーブルの配置や席を変えている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはあえて新調しなくても本人が使っていた馴染みの物を推奨している。ここでの生活を重ねるにつれ増えてゆく写真やカードを壁に貼ったりして楽しんでいる	居室はベットと防火カーテンを備え付けており、それぞれの思いが詰まった馴染みのタンス類も見られ、落ち着いた居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	約半数の方が車椅子を使用している。その日の体調や気分に応じて配慮しながら自走を促している。その際には転落や接触事故の起きない様見守っている		